

いつでも！どこでも！誰でも！【使える】
授業づくりの～まなブック～

令和元年 大月町教育委員会

このリーフレットは、子どもたちにとってわかりやすい「授業づくり」に向け、大月町の先生方の授業がステップアップできるよう、活用してもらうことを目的に作成しました。

それぞれの先生方が、子どもたち一人ひとりの「わかりたい」「できるようにになりたい」という想いや願いを大切にしながら、日々の授業を振り返るとともに、授業をさらにステップアップさせることで、子どもたちの「学ぶ・学びぬく力」をより一層向上させることができると考えます。

大月町の小中学校の先生方のすべての授業において、子どもたちにとって子どもが主役の授業、わかりやすい授業、力が育まれる授業を目指していきましょう。

使えるポイント～part1～

- いつでも使うことができます！
授業の前に、教材研究を行う際に、指導案を作るときに、いつでも使えます。
- どこでも使うことができます！
教室で、職員室で、校内研修で、どこでも使えます。
- 誰でも使うことができます！
経験豊富な先生も、若手の先生も、誰でも使えます。



使えるポイント～part2～

日々の授業づくりにおける大切な内容の中から、

「めあて」「まとめ」「話し合う活動」「書く活動」「振り返り」の5つに焦点をあて、

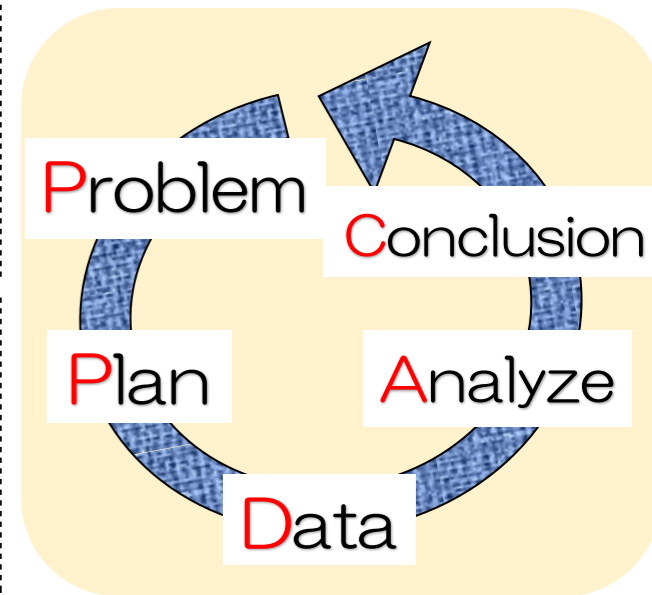
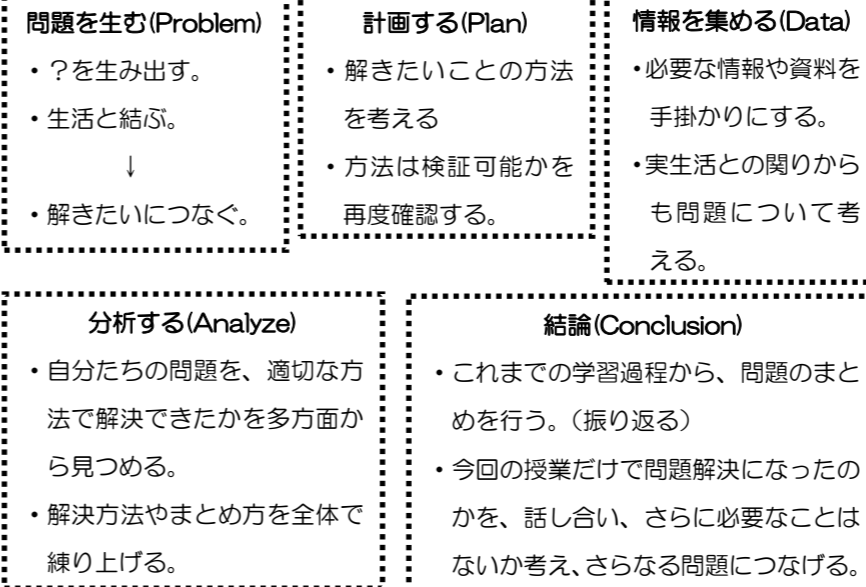
それぞれについて【3ステップ】で示しています。
 今日の授業はどのステップなのか、チェックしてみると授業が見えてきます。



- ステップ1 多くの先生方が、すでに実践していると考えられるステップです。
- ステップ2 高知県のスタンダードとして、全ての先生方に実践してほしいと考えるステップです。
- ステップ3 ステップ2を実践している先生方に、次に意識してほしいと考えるステップです。

ステップ1

短期PDCAサイクルを回し、授業改善をPPDACで行う



PPDAC から始める【主体的・対話的で深い学び】の実現

- 子供が一人で問題に取り組むのではなく「ペアで意見を交換する」「子供が説明する」授業
- 分かっている人が分からない人に伝え、分からない子は仲間から教師とは違う視点で説明を聞く授業
- 子供が自分で考え判断したことをコミュニケーションをとりながら子供同士で伝え合う授業
- 算数でも国語でも、その教科の内容を学びつつ、その過程から、「今後の生き方も学ぶ」授業
- 子供が自らの成長を感じ、教師はその成長をこれまでの姿と比べながら「語り合える」授業



上記の授業等が実現できれば、子どもも教師も「分かる、できる、楽しい」学びが保障されます。そのためにも3つのポイントをおさえましょう。

①授業スタンダードと能力ベースの授業の融合

これまでの高知県が示してきたベーシックに則りつつ、新学習指導要領に示された能力ベースの授業づくりを融合させることで、目指す授業づくりの達成がはかれるはずです。

②全員活躍型の学校づくり

一人のスーパーティーチャーよりも全員が同じ方向、ベクトルを合わせて「チーム学校」で学校を組織していくことが子どもも教師も、保護者も理想の学校となるはずです。

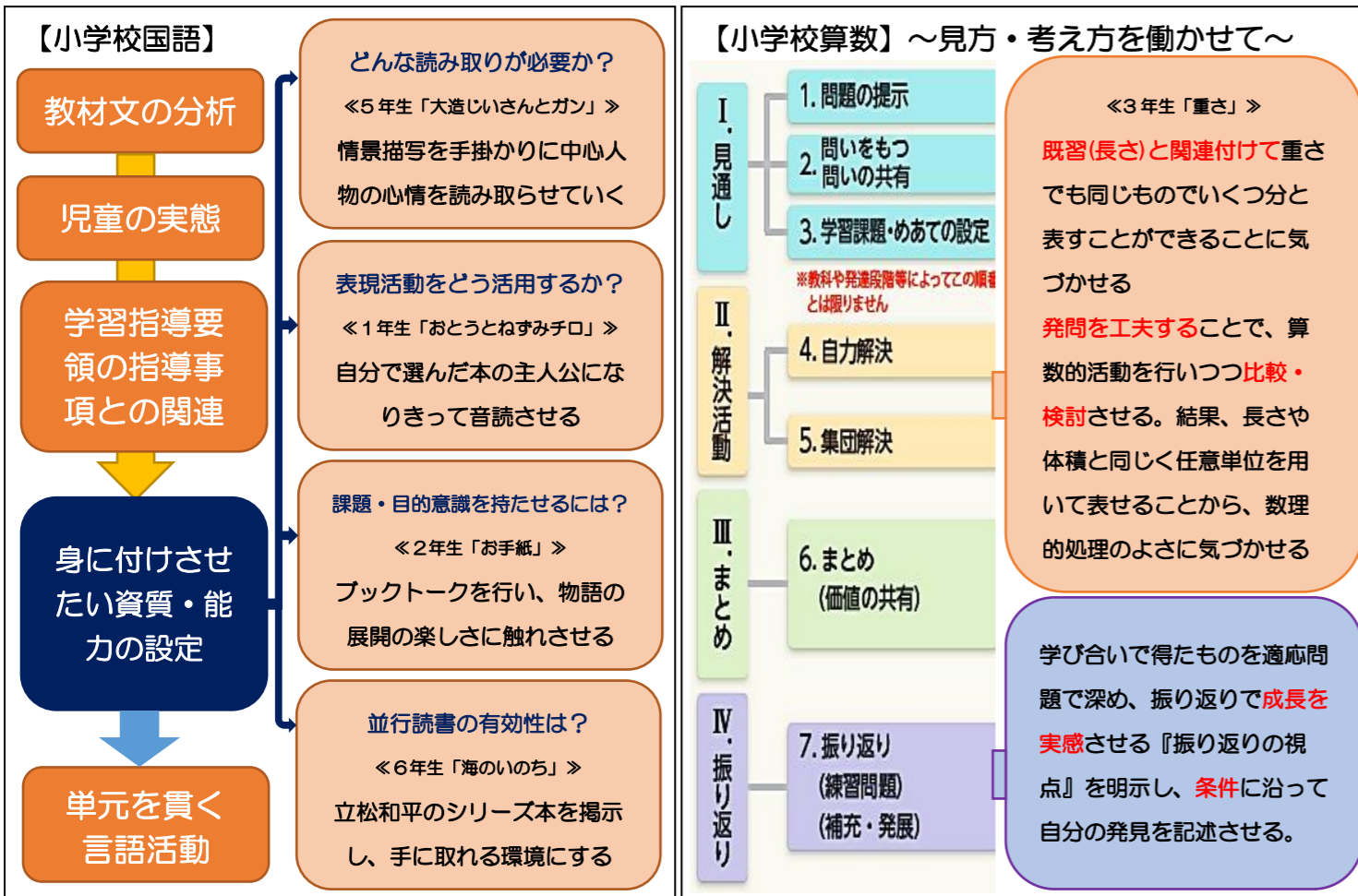
③教科横断的な学び（授業のユニバーサルデザイン化）

全教科で問題解決的学習を行うことで、教科で身に付けた力を活用して様々な場面で活躍できる子どもを育てることにつながります。子どもたちにとって必要なものは学校全体で共有し、取り組みましょう。

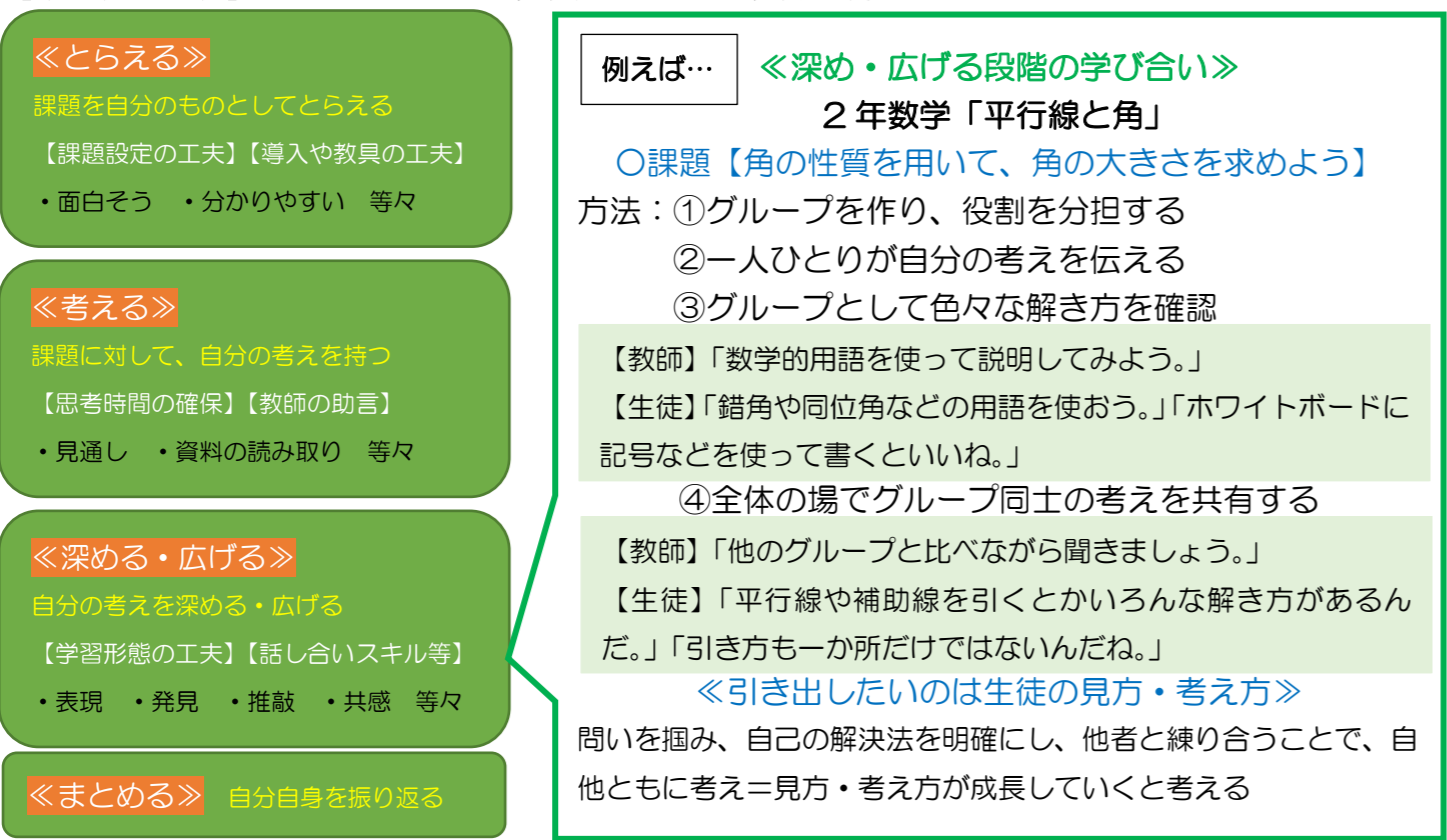
ステップ2

考えをつなぐ学び合いの工夫

身に付けさせたい力を明確にし、そのための学習過程をどうするか考え、さらに考えをつなぐ学び合い（教科における言語活動等）を工夫することで、【見出し、見直し、迫る】ことを自力及び集団解決を通して行い、単元さらには学年のゴール後の子どもの成長を支援します。



【中学校各教科】～ゴールとしての資質・能力を5視点で育てる～



ステップ3

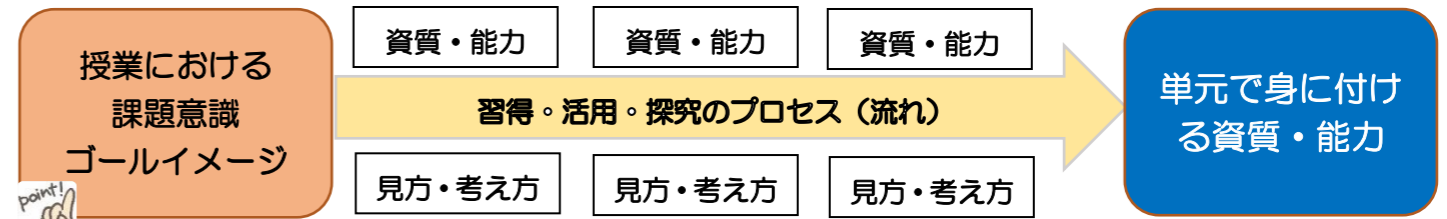
ユニバーサルデザインを意識した能力ベースの授業づくり

高知県授業スタンダード「ベーシック」により、授業の手順や方法などルールを共有し合うことで授業づくりの行動統一ができ、子どもの学習方法、学習規律が統一されてきました。これからはそのベーシックを土台としつつ、資質・能力ベースの授業を作りだす「ポスト・ベーシック」という新たな型を創っていきましょう。

【ポスト・ベーシック】って??

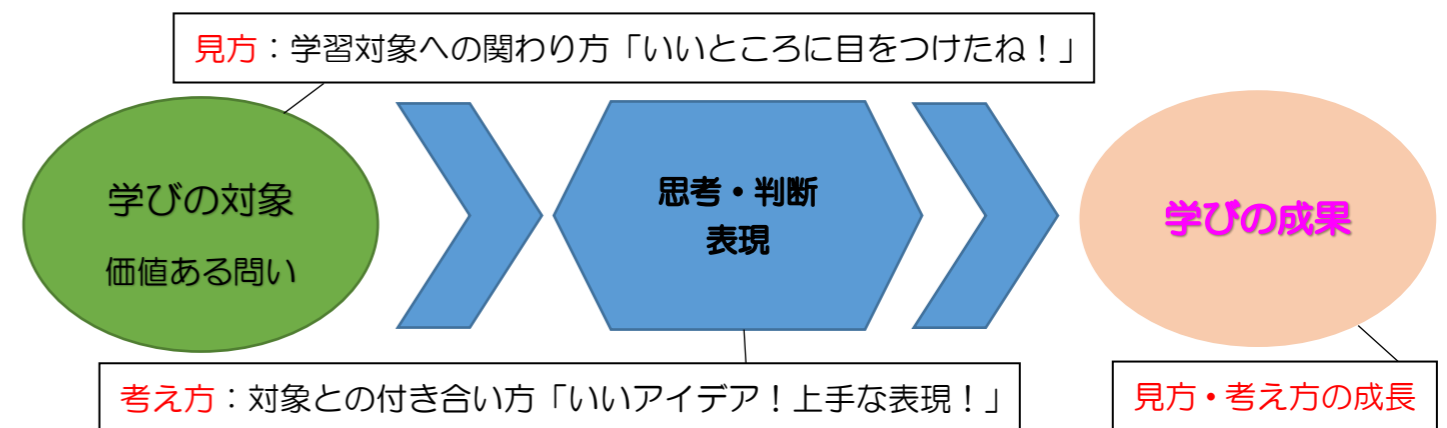
①「思考力・判断力・表現力等」「知識及び技能」「学びに向かう力・人間性等」の三つの柱の資質・能力と各教科の見方・考え方を組み合わせる

各教科の単元で身に付けさせる資質・能力を、教材分析と言語活動を通して育成していきます。その際に、問い（課題）をどのように捉え、考えるかという個々の見方・考え方を働かせることが必要になります。



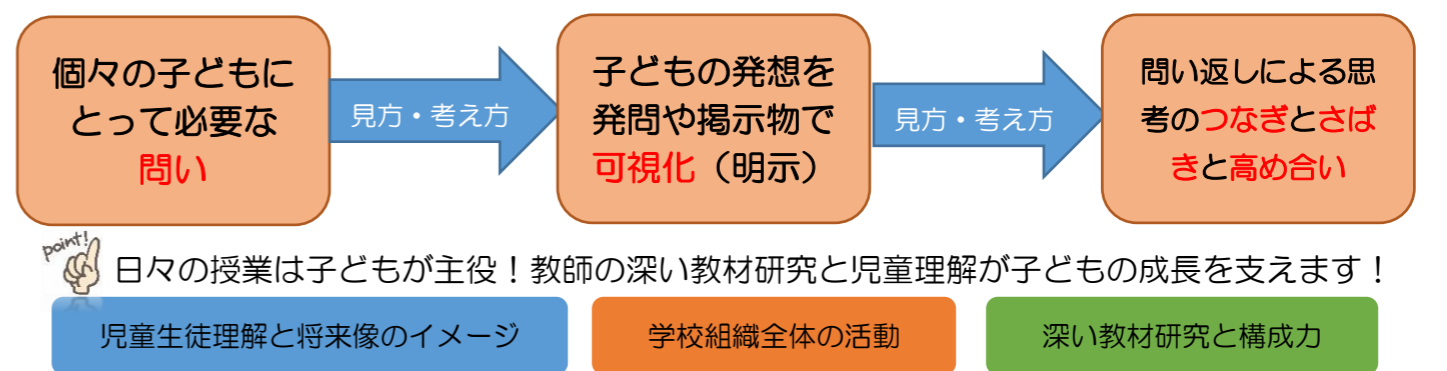
②学習を深める鍵である「見方・考え方」を鍛えることで、学びの成果を大きくしていく

資質・能力を育成することは分かっても、見方を磨き、考え方を高めなければ授業の成果は生まれません。子どもたちの見方・考え方（既知のめがね）を新たな見方に触れることで成長させます。



③子どもの知識や経験を生かし、学習活動を通して抽象度の高い概念や思考力・表現力を育む

目指す子どもの姿に育てるために、教師が深い教材研究を行い、常に行動、意志決定を繰り返していきます。子どもの発言、記述の自発的な問いや気づきの価値に教師が気づく必要があります。



【参考・引用文献】・文部科学省：「小学校・中学校学習指導要領」平成29年 ・西留安雄：「アクティブラーニング 2019」平成31年
・高知県教育委員会：「高知県授業づくり Basic ガイドブック 平成29年度改訂版」平成29年
・齋藤一弥：「新教育課程を活かす能力ベースの授業づくり」平成31年